ICOM

取扱説明書

特定小電力トランシーバー(20ch対応)

IC-4008W

単信方式の9ch機および
11ch機とも通話できます。

この取扱説明書は、別売品についても記載しています。お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-4008Wをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本機は、技術基準適合証明に認定された、特定小電力トランシーバーです。
ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本機は、IC-4008B/IC-4008と交信できます。
IC-4008Bとの交信は、本機の1～11チャンネルをご使用ください。
IC-4008との交信は、本機のの12～20チャンネルをご使用ください。
※相互運用について詳しくは、33ページをご覧ください。

付属品

・ベルトクリップ　・取扱説明書　・保証書

おことわり

◇本文の操作図や状態表示は操作時の一例で、ご使用の機器の状態と一致しないことがあります。
◇操作図の中でスイッチをふつうに短く押すときと、長く(1秒以上)押すときの区別を次のように表現しています。

→ **短く押すとき**　→ **長く(1秒以上)押すとき**

◇ビープ音(操作音)などは、出荷時の状態で説明しています。
設定を変更されたときは、説明と異なる場合があります。

目　次

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

- **ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。**
- **お読みになったあとは、大切に保管してください。**

■ 無線機本体について

⚠危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。**
  引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
  交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

- **指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
  また、ご自分で修理しないでください。
  火災、感電、故障の原因になります。
- **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
  すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

⚠注意　**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
  変形や破損の原因になることがあります。
- **指定以外の別売品を接続しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
  けが、故障の原因になることがあります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
  電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

1 安全上のご注意

■バッテリーパックについて

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **専用充電器(BC-119N)以外で充電しないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **指定以外の充電器で充電しないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。**
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- **バッテリーパックの端子間をショートしないでください。**
  ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックは下記のことを必ず守らないと、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。**
  ○火の中に投入したり、加熱しない
  ○半田付けしない
  ○プラス⊕とマイナス⊖を針金などの金属類で接続しない

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **分解、改造をしないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **指定時間以上充電しないでください。**
  満充電後、すぐに再充電を繰り返すと過充電となり、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。

- **電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
  皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

⚠注意　**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

- **＋10〜40℃の範囲以外では充電しないでください。**
  この温度範囲以外では電池の液もれ、発熱の原因になることがあります。
- **高温の場所で使用、放置しないでください。**
  電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- **寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。**
  電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- **電池を水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。**
  電池の発熱、サビの原因になることがあります。
- **バッテリーパックを使用の際に異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。**
  そのまま使用すると、電池の破裂、発熱、液もれ、故障の原因になることがあります。
- **強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。**
  液もれの原因になることがあります。
- **無線機を長時間使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、−20〜＋35℃の湿気の少ない場所に保管してください。**
  電池の発熱、サビの原因になることがあります。

1 安全上のご注意

■充電器について

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **バッテリーパック(BP-202)専用の充電器です。**
  指定以外の充電には使用しないでください。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **指定以外の電源に接続しないでください。**
  他の電源で使用すると、火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **この製品を分解、改造をしないでください。**
  火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **指定以上の連結充電は絶対にしないでください。**
  火災、発熱、故障の原因になります。
- **充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **電源コードや接続ケーブルの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。**
  傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- **電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。**
  傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- **充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。

- **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
  感電、けがの原因になります。
- **ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。**
  感電の原因になります。
- **万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
  すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。
- **電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げ販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

⚠注意　**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

- **0～＋40℃の範囲以外では充電しないでください。**
  この温度範囲以外では電池の液もれ、発熱の原因になることがあります。
- **湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- **充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

■充電器について(つづき)

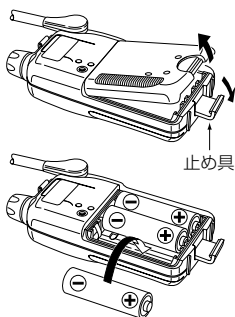
⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

- **ACアダプターを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。**
  火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください
- **充電器を保管するときは、−20～+60℃で湿気の少ない場所に保管してください。**
  サビの発生、性能低下の原因になることがあります。

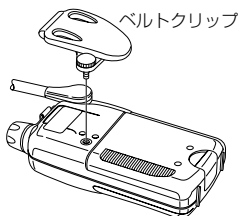
その他の取り扱い上のご注意

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、ご使用の前に必ず充電してください。
- バッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
  けが、故障の原因になることがあります。
- 磁気を利用したカード(キャッシュカード、定期券など)を無線機に近づけないでください。
  磁気カードの内容が消去されることがあります。
- 長期間使用しないときは、バッテリーパックを取りはずして湿気の少ない場所に保管してください。
- 他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らすことは、電波法でかたく禁じられています。
- この製品を法律や電圧の異なる外国では使用できません。

2-1 電池の入れかた

① 電池カバーの止め具をはずし、電池カバーを取りはずします。
※ 電池カバーの止め具をかたくしていますので、コインなどを利用してはずしてください。
② 市販の単3形電池を3本用意し、プラス(⊕)/マイナス(⊖)をまちがえないように入れてください。
※ 本機の電池には、アルカリ電池が適しています。

アルカリ電池の運用時間(寿命)は、送信1分/受信1分/待ち受け8分の時間比で使用した場合、**約60時間**です。

2-2 ベルトクリップの取り付けかた

本体背面に取り付けます。
運用中にゆるまないように、しっかりとネジをしめつけてください。

2-3 アンテナの使いかた

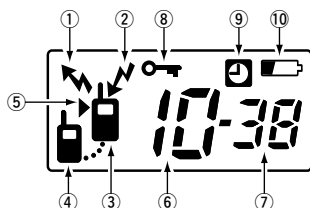
運用するときは、必ずアンテナを立ててください。
アンテナを閉じておくと、極端に感度が悪くなり、交信できません。

3　各部の名称と機能

3-1 前面パネル

名　称	機　　能
①アンテナ	電波を発射したり、受信する部分です。 通話しないときは、本体背面に収納できます。
②PTT(通話) スイッチ	送信と受信を切り替えるスイッチです。 送信するときは、スイッチを押しながらマイクに向かって話してください。 スイッチを離すと、受信ができます。

名　　称	機　　　　能
③**UP(アップ)/DOWN(ダウン)スイッチ** 本文中は▲(アップ)/▼(ダウン)と表示します。	通話チャンネルを切り替えるスイッチです。 1回押すごとにチャンネルがアップ/ダウンし、押し続けると連続動作になります。 グループ番号設定モード時は、グループ番号の設定ができます。
④**電池収納部**	単3形乾電池または別売品の充電式バッテリーパックを入れる部分です。
⑤**スピーカーマイク端子**	別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続する端子です。 接続しないときは、ホコリや雨を防ぐため、ゴムカバーでフタをしてください。
⑥**VOL(音量)ツマミ**	音量を調整するツマミです。 右に回すと、音が大きくなります。
⑦**表示部**	運用状態(☞P11)を表示します。
⑧**POWER(電源)スイッチ**	本機の電源を"ON/OFF"するスイッチです。 電源を"ON"時に1秒以上押すと、キーロック機能(☞P20)が動作します。
⑨**MODE(モード)スイッチ**	通話(交信)するモードと、グループ番号の設定モードを切り替えるスイッチです。 また、1秒以上押すと、モニター機能(☞P19)が動作します。
⑩**マイクロホン部**	超小型のマイクロホンを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵マイクは動作しません。
⑪**スピーカー部**	超小型のスピーカーを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵スピーカーは動作しません。

3-2 表示部

名　　称	内　　容
①送信表示	送信中を表示します。
②受信表示	受信中を表示します。
③自局表示	自局を表わし、①②③④⑤の表示と組み合わせて自局の運用状態を表示します。
④圏内/圏外表示	圏内確認機能(☞P15)が“ON”のとき、相手局が通信圏内(点灯)か圏外(点滅)かを表示します。
⑤ワンタッチPTT表示	ワンタッチPTT機能(☞P21)が“ON”であることを表示し、送信中は点滅、受信中および待ち受け時は点灯します。
⑥チャンネル表示	通話チャンネル番号を表示します。
⑦グループ番号表示	グループ番号を表示します。
⑧キーロック表示	キーロック機能(☞P20)が“ON”のとき、点灯します。
⑨オートパワーオフ表示	オートパワーオフ機能(☞P22)が“ON”のとき、点灯します。
⑩電池残量表示(電池マーク)	電池の容量が少なくなると、点灯します。 さらに少なくなると、点滅します。

1 POWERスイッチを短く押して電源を入れる

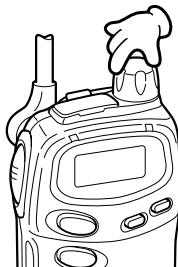
ビープ音が“ピピッ”と鳴り、表示部が点灯します。

- **電源を切るときは、**一秒以上押してください。
  ※表示が消えるまで押し続けてください。

2 VOLツマミを回して音量を調節する。

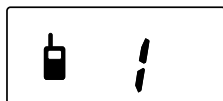
ツマミを右に回すと音量が大きくなります。聞きやすい音量に調節してください。

- 信号を受信していないときに調節する場合は、MODEスイッチを1秒以上押すと「ザー」という雑音がでますので、その音を使用して調節してください。

※調節後もう一度MODEスイッチを1秒以上押して、雑音をとめてください。

3 ▲または▼スイッチを押し通話チャンネルを合わせる

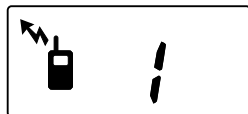
相手も同じ通話チャンネルに設定していないと、通話できません。

- ▲/▼スイッチは、押し続けると連続動作しますが、1チャンネルになると“ピピッ”が鳴って動作が止まります。
  いったんスイッチを離すと、再操作できます。

例.通話チャンネルを1に設定

4 PTTスイッチを押して送信する

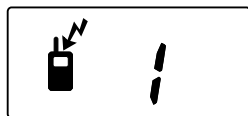
PTTスイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって通話相手局を呼び出します。

- 送信中(PTTスイッチを押している間)は、表示部に送信表示が点灯します。

送信中の表示例

5 PTTスイッチを離して受信する

PTTスイッチを離すと受信(待ち受け)状態になり、相手局が送信すれば音声が聞こえて受信になります。

- 受信中は、表示部に受信表示が点灯します。
- 待ち受け状態のとき、送信、受信表示は消灯しています。

受信中の表示例

受信表示は、通話相手以外の信号(同一チャンネルで他局が交信中)を受信しているときも点灯します

6 交信する

送信と受信は交互に行います。

- 相手局が送信しているときは、PTTスイッチを押しても混信防止機能が動作してビープ音が“プッププ”と鳴り、送信できません。
- 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、交互の会話がスムーズになります。

交信時のアドバイス

■ 通話(送信)時間の制限について

連続して通話できる時間は「3分以内」と電波法で定めています。
通話時間が終了する10秒前になると、"ピー"音で知らせます。
通話時間が3分になると"プップップ"と警告音が鳴り、自動的に通話が切れます。また、3分以内でも2秒以上通話が途切れると、自動的に通話が切れます。

◇通話が切れると2秒間は休止時間になり、回線はつながりません。2〜3秒後にPTTスイッチを押して呼び出せば、通話を再開できます。

■ 交信範囲について

電波の届く範囲は、周囲の状況(建物や山など)により異なりますが、おおよそのめやすは次のとおりです。

- 見通しのよい場所　：約2km
- 郊外　：約1〜2km
- 高速道路　：約500m
- 市街地　：約100〜200m

◇交信範囲であっても、建物のかげなどに入ると、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信するようにしてください。

■ マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほど離し、普通の大きさの声で話しかけてください。
マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって明りょう度が悪くなりますのでご注意ください。

■ 相手局の声が途切れたり弱くなるときは、モニター機能を使う

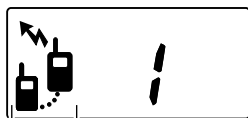
受信中に相手の声が聞こえにくいときは、MODEスイッチを1秒以上押すと、モニター機能(☞P19)が動作し、音が途切れなくなります。
ただし、通信の状況により効果のない場合があります。

5 圏内確認のしかた

圏内確認機能は、交信する相手局が圏内(電波の届く範囲)か、圏外かを自動的に判別する機能です。

1 PTTスイッチを押しながらMODEスイッチを押して圏内確認機能を"ON"にする

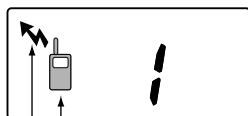
上記操作を繰り返すごとに、圏内確認機能が"ON/OFF"します。

- 圏内表示が点灯します。
- **圏内確認機能を解除するときは、**圏内表示を消灯します。

圏内表示点灯(設定後約5秒間)

2 圏内/圏外を確認する

1の操作をすると、約5秒後に1回目の圏内確認動作をします。

- **圏内なら　：圏内表示点灯**
- **圏外なら　：圏内表示点滅**以後、圏内確認は1分間隔で自動的に動作し、変化があれば表示を変えます。

圏内確認動作中の表示

3 交信する

圏内表示になっていることを確認し、交信してください。
圏外表示のときは、交信できません。

グループ機能の使いかた　6

グループ機能は、通話チャンネルとグループ番号の一致した局だけと通信するための機能で、特定の相手局またはグループ局と交信するのに便利な機能です。

1 MODEスイッチを短く押して グループ設定表示にする

- グループ番号設定表示になります。
  以前にグループ番号を設定している場合は、その番号を表示します。

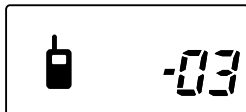
グループ番号設定表示(初期時)

2 ▲/▼スイッチを押して グループ番号を設定する

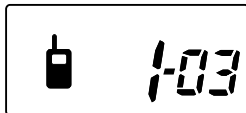
使用するグループ番号(01～38)を選びます。

- 押し続けると連続して切り替えます。

※ 押し続けると**"ー ー ー"**で止まりますので、押し直してください。

グループ番号3の設定表示例

グループ番号は、1～38まで設定できます。

3 MODEスイッチを短く押して グループ設定を終了する

通話チャンネルと設定したグループ番号の表示となります。

《ご注意》

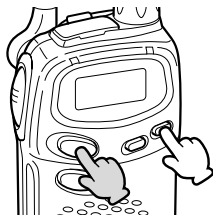
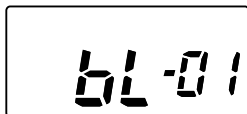
- 以後、同一チャンネルで同じグループ番号の局だけと交信できます。グループ内の交信は、同一グループのすべての局に聞こえます。
- グループ以外の局が同一チャンネルを使用中は、交信できません。
- 交信のしかたは、12～13ページをご覧ください。
- **グループ機能を解除するときは、**上記2の操作で**"ー ー ー"**(番号表示なし)に設定してください。

7 ベル機能の使いかた

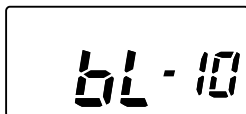
7-1 ベル音の種類を設定するには

ベル機能は、通話相手局を呼び出すとき、電話のように呼び出し音(ベル音)を鳴らして呼び出す機能です。

1 いったん電源を切り、▲スイッチを押しながらPOWERスイッチを押してベル音の設定表示にする

ベル音の初期設定表示

2 ▲/▼スイッチを押してベル音の種類を設定する

スイッチを押すごとに表示が切り替わり、ベル音を鳴らします。
10種類の中から、使いたいベル音を設定してください。

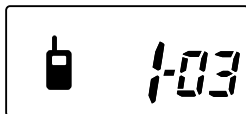
10番目のベル音の設定した例

3 MODEスイッチを押してベル音の設定を終了する

7-2 接続確認用ベルの使いかた

接続確認用ベルは、グループ運用にしていないと使用できません。

1 グループ機能を“ON”にする

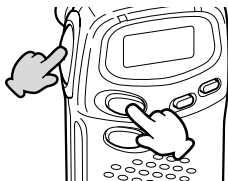
交信する相手局と同じグループ番号(☞ P16)にします。

グループ運用の表示例

2 PTTスイッチを押しながら▲スイッチを1回押して接続確認用ベルを送出する

操作音"ピピピピ"が鳴ります。(ベル音ではありません)

- 自動的に接続信号を送出し、相手局との接続確認をします。

【ご注意】

- **接続ができると、送信側、受信側とも約10秒間ベルが鳴ります。**ベル音は、送信側、受信側でそれぞれ前ページで設定した種類のベル音になります。
- **接続ができないときは、送信側で"ブブブ"音が鳴り、ベルを送出しません。**(通話相手が圏外、通話チャンネルが異なる場合など)
- **ベルが鳴り出したらPTTスイッチを押します。**
  ベルが止まって通話ができます。
  (ベルが鳴り終わってからでも通話できます)

7-3 呼び出しベルの使いかた

呼び出しベルは、通話開始の合図や通話中に相手が出なくなったときの、再呼び出しなどに使用できます。
呼び出しベルは、グループ機能の"ON/OFF"に関係なく動作します。

1 PTTスイッチを押しながら▼スイッチを押して呼び出しベル送出する

スイッチを押している間、前ページで設定したベル音を送ります。

- **受信側では、送信側と同じベル音が同じ時間鳴ります**ので、個別にちがうベル音にしておけば、呼び出し相手をベル音で判別できます。
- 音声を送信しているときに▼スイッチを押すと、音声の代わりに、ベルを送出します。

8 その他の便利な機能

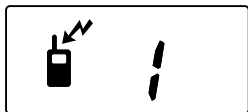
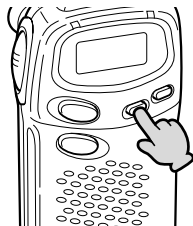
8-1 モニター機能の使いかた

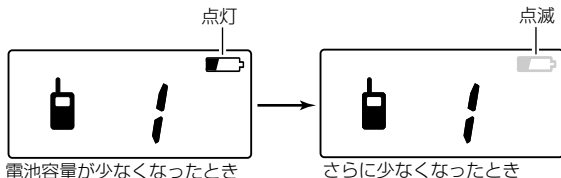
モニター機能は、受信中に相手の音声が途切れたり、弱くなったりしたときに、聞こえやすくする機能です。

① 受信中に相手の音声が聞こえにくくなれば、MODEスイッチを1秒以上押します。
モニター機能が動作し、音声が聞こえやすくなります。

※ モニター機能の動作中は、受信表示が点灯します。

※ 通信の状況により、効果のない場合もあります。

② **モニター機能を解除するときは**、もう一度MODEスイッチを1秒以上押します。

8-2 電池の残量表示について

電池の容量が残り少なくなると、表示部に電池マークが点灯し、さらに少なくなると点滅します。

- 乾電池の場合、点滅したらすべて新しい電池と交換してください。
- バッテリーパックの場合、点灯したら充電してください。

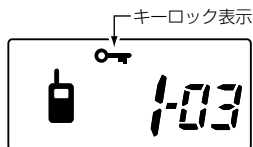
8-3 キーロック機能の使いかた

不用意にスイッチに触れても、設定内容(表示)が変わらないように、スイッチ操作を無効にする機能です。

キーロック中は、表示している相手と交信する操作だけができ、交信以外の操作をできなくしています。

① いったん電源を切り、もう一度POWERスイッチを約2秒押すと、電源が入ってキーロック表示が点灯します。

※ キーロックにすると、MODEスイッチおよび▲/▼スイッチの操作を無効にします。

② **キーロック機能を解除するときは、**いったん電源を切り、もう一度POWERスイッチを約2秒押して電源を入れ直し、キーロック表示を消灯します。

■キーロック中の操作範囲

キーロックにしているときは、下記の操作だけができます。

◇電源の“ON/OFF”操作
◇PTTスイッチによる送信および受信の切り替え
◇VOLツマミによる音量調整
◇PTTと▲/▼スイッチによるベルの送出
◇MODEスイッチの長押し(1秒)によるモニター機能
◇キーロック機能の解除

キーロック中は、いったん電源を切ってから各種の機能を設定する操作も無効にしています。

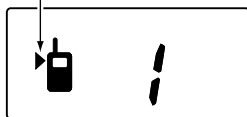
8-4 ワンタッチPTT機能の使いかた

ワンタッチPTT機能は、PTTスイッチを1回押すごとに送信と受信を切り替える機能で、PTTスイッチを押し続ける操作を省略できます。

① いったん電源を切り、PTTスイッチを押しながらPOWERスイッチを押し、もう一度電源を入れ直すと、ワンタッチPTT表示が点灯します。

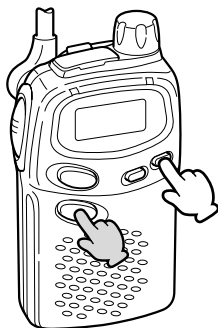
※ 以後、PTTスイッチを1回押すと送信状態を維持するので、そのままマイクに向かって話してください。
もう1回押すと送信が切れ、受信状態になります。

② **ワンタッチPTT機能を解除するときは、**もう一度①の操作をしてワンタッチPTT表示を消灯します。

ワンタッチPTT表示

8-5 ビープ音の“ON/OFF”

スイッチ操作をしたときに鳴る操作音(ビープ音)を“ON/OFF”できます。

- いったん電源を切り、▼スイッチを押しながらPOWERスイッチを押し、もう一度電源を入れ直します。
- 上記操作をするごとに“ON/OFF”が切り替わります。

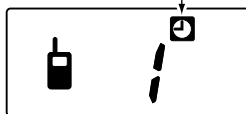
※ 操作時以外に鳴る警告音やベル音は、この設定に関係ありません。

8-6 オートパワーオフ機能の設定

なにも操作しない状態が2時間以上続くと、自動的に電源を切る機能で、電源を切り忘れても安全です。

① いったん電源を切ります。
次に、MODEスイッチを押しながら、POWERスイッチを押して電源を入れ直すとオートパワーオフ表示が点灯し、機能が有効になります。

※ 以後、スイッチ操作をしない状態が2時間続くと、“ピピピピピ”音が鳴り、自動的に電源が切れます。

※ 何か操作をしたり、電源を“ON/OFF”するごとにオートパワーオフの2時間タイマーがスタートします。

② **オートパワーオフ機能を解除するときは**、①と同じ操作をしてください。
オートパワーオフ表示が消灯し機能が無効になります。

8-7 その他自動的に動作する機能

■表示部の自動照明

スイッチ操作をすると、表示部に照明が点灯します。
この照明は、操作しない状態が5秒続くと、自動的に消灯します。

■パワーセーブ機能

パワーセーブは、送受信および操作のない状態が5秒以上続くと、機器を自動的に休止状態にします。
電池の消耗を最小限に抑えるための機能で、自動的に動作します。

9 別売品とその使いかた

本機をさらに効率よく、便利にお使いいただくため、下記の別売品を用意いたしました。

BP-202	ニカドバッテリーパック(DC 3.6V 700mA)
BC-119N	BP-202 専用急速充電器
AD-89	BC-119N用充電アダプタ
HM-75A	リモコン機能付きスピーカーマイク
HM-128	イヤホンマイク
HM-131	スピーカーマイク
HS-85	VOX(音声による送受信切り替え)機能付きヘッドセット

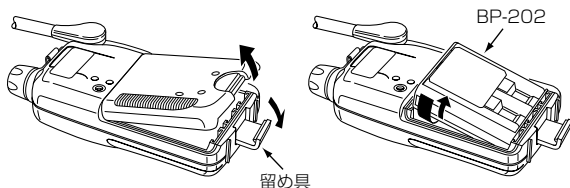
9-1 ニカドバッテリーパックについて

■充電時期について

- 新しいバッテリーパックをお買い上げいただいたときや、長期間(約2ヶ月以上)使用しなかったときは、必ず充電してください。
- 表示部に電池マークが点灯( )したときは、その後、数回の交信はできますが、すぐに点滅に変わって使用できなくなります。
  電池マークが点滅する前に、充電することをおすすめします。

■運用時間のめやす

- バッテリーパック(BP-202)の運用時間は、送信 1 分：受信 1 分：待ち受け 8 分の割合で使用した場合、満充電で約24時間がめやすです。

● バッテリーパックのはずしかた

バッテリーパック充電時のご注意

- バッテリーパックおよび急速充電器は、ご使用の前に「安全上のご注意」(1～7ページ)を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
- バッテリーパック(BP-202)は、専用充電器(BC-119N)以外で充電しないでください。
- 充電器(BC-119N)でBP-202以外のバッテリーパックや、乾電池類を充電しないでください。
- BP-202およびBC-119Nを、本機以外の目的で使用しないでください。
- バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、**必ず無線機の電源を切って**充電してください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、正しく充電されていれば、約300回がめやすです。
  指定時間充電しても、運用時間が極端に短くなりだしたときは、バッテリーパックの交換時期です。
- 充電するときの温度範囲は、＋10～＋40℃です。
  極端な高温・低温になる場所では、充電できないことがあります。
- バッテリーパックが満充電になったのち、短時間運用して(電池の容量がまだ十分にあるとき)繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態になります。
  このときは、電池を完全に放電(電池を使いきる)してから、再充電してください。
  短時間運用して充電の繰り返しは、電池の劣化にもつながりますのでおやめください。

Ni-Cd

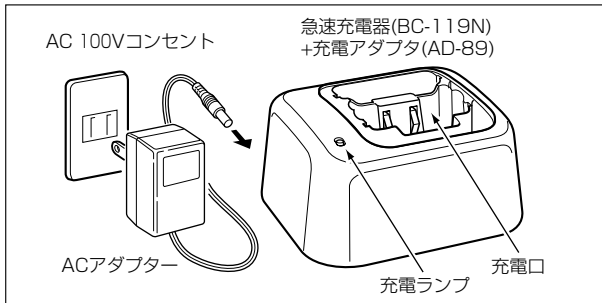
使用後はリサイクルへ

この機器は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は破棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

9-2 急速充電について

■ 充電のしかた

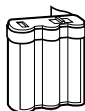
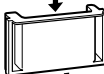
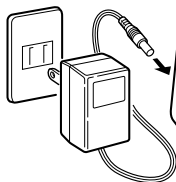
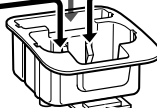
①電源を接続する

ACアダプターの接続ケーブル側を充電器後面のジャックに差し込み、AC 100Vコンセントに ACアダプターのプラグを差し込んでください。

②バッテリーパックまたは無線機を充電口にセットする

充電するときは、右図のように無線機本体のまま充電する方法と、バッテリーパックを単独で充電する方法があります。
バッテリーパックを単独で充電するときは、充電口の中央部に仕切板を差し込みます。
バッテリーパックの向きに注意(右図参照)してセットしてください。

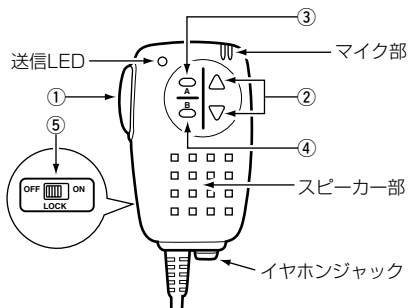
※充電中は、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
※充電が完了すると、充電ランプは緑色に変わります。
※充電時間は、約70〜80分です。
電池の残容量により、ばらつきがあります。

《ご注意》
充電しないときや充電完了後は、安全のためACアダプターをACコセントから抜いてください。

■充電器へのセット方法

【ご注意】

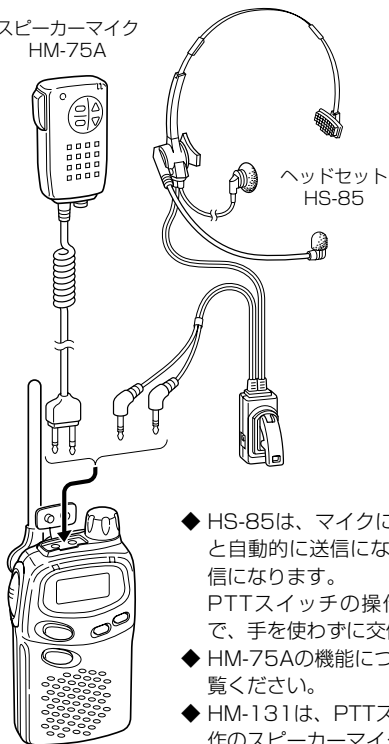
- バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
- 無線機本体の電源接続端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電および電源接続端子)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。

9-3 スピーカーマイクについて

HM-75Aは、本体スイッチの操作と同じ操作を手元でできる、リモコン機能付きの便利なスピーカーマイクです。
本体上部のスピーカーマイク端子に接続(次ページ)してください。

名　称	機　　　能
① **PTTスイッチ**	本体PTTスイッチと同様に、送受信を切り替えるスイッチです。 ※ワンタッチPTT機能は使えません。
② **▲(アップ)/▼(ダウン)スイッチ**	本体▲/▼スイッチと同様に、チャンネルまたはグループ番号のアップ/ダウンおよびPTTスイッチと併せるとベルを送出できます。
③ **Aスイッチ**	接続確認用ベルを送出するスイッチです。
④ **Bスイッチ**	このスイッチは、押している間だけモニター機能を“ON”にします。 (本体のMODEスイッチを1秒以上押すのと同じ動作)
⑤ **LOCKスイッチ**	HM-75A(裏面)のスイッチで、上記②～④のスイッチをキーロックし、無効にします。

9-4 スピーカーマイク/ヘッドセットの接続について

スピーカーマイクまたはヘッドセットは、下図のように本体上部のスピーカーマイク端子に接続します。

スピーカーマイクを接続すると、本体のスピーカーおよびマイクは、動作しなくなります。

◆ HS-85は、マイクに向かって話しかけると自動的に送信になり、話をやめると受信になります。
PTTスイッチの操作を省いていますので、手を使わずに交信ができます。

◆ HM-75Aの機能については前ページをご覧ください。

◆ HM-131は、PTTスイッチだけの簡単操作のスピーカーマイクです。

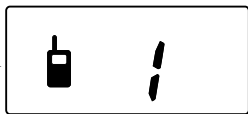
10 ご参考に

10-1 初期状態に戻す(リセットする)には

次ページの、「故障かな？と思ったら」の処置をしても異常があるときや、すべての設定を工場出荷時の状態に戻したいときなどは、下記のリセット操作を行なってください。

- いったん電源を切り、MODEスイッチと▼スイッチを押しながら、POWERスイッチを押して電源を入れます。

※約3秒間すべての表示が点灯したのち、チャンネル1だけの表示になります。

約3秒間、全点灯表示する　　通話チャンネル1に戻る

※キーロック(キーロック表示点灯)しているときは、リセット操作はできません。いったんキーロック機能(☞P20)を解除してください。

- **初期状態での設定値**

リセット操作をすると、設定した機能が次のように初期状態に戻ります。運用に必要な機能は再設定してください。

◇通話チャンネル(☞P12)　：1
◇グループ機能 (☞P16)　：OFF
◇キーロック機能(☞P20)　：OFF
◇ワンタッチPTT機能(☞P21)　：OFF
◇ベル音の種類(☞P17)　：bL-01
◇オートパワーオフ機能(☞P22)　：OFF
◇ビープ(操作音)機能(☞P21)　：ON

10-2 故障かな?と思ったら

下記のような症状は故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

症　状	原　因	処　置	参照
電源が入らない	電池の極性まちがい	極性を確認していれなおす	P8
	電池の消耗	乾電池を交換する バッテリーパックを充電する	P8 P25
通話チャンネルまたはグループ番号が切り替わらない	キーロック機能が“ON”になっている(キーロック表示点灯)	いったん電源を切り、POWERスイッチを約2秒押して、キーロックを“OFF”にする(キーロック表示消灯)	P20
送信できない（プップップが鳴る）	3分間の通話制限時間がすぎたとき	2〜3秒待ってから、もう一度送信する	P14
	他局が送信しているとき	受信表示が消灯してから送信する	P13
呼び出しをしても相手が出てこない	相手局と通話チャンネルまたはグループ番号が合っていない	設定を合わせる ※設定が合っていれば相手が不在か電源をきっています。	P12 P16
交信できない	相手との距離が離れすぎている	場所を移動してから交信してみる	P14
	アンテナを閉じたままにしている	アンテナを完全に立てる	P8
	圏外表示(点滅)になっているとき	圏内表示(点灯)に変わるまで待つ	P15

10-3 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」(☞P30)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：アイコム株式会社
サポートセンター
06-6792-4949
(平日 9:00～12:00、13:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

10-4 日常のお手入れと点検について

- **清掃するときは、シンナーやベンジンなどは絶対に使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗装がはげる原因になります。
- **ふだんのお手入れは、やわらかい布でふいてください。**
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませて、ふいてください。
- **無線機本体の電源端子や、バッテリーパックおよび充電器の接続端子にゴミやホコリが付着すると、電源が入らなくなったり正常に充電できなくなることがあります。定期的にお手入れをして汚れを防止してください。**
- **無線機を使用する前に、電池の残量が十分にあるか、電池マークを確認(電池マークが消灯していること)してください。**
  また、電池は正しくセットされているか、アンテナは最良の状態に引き出しているかを確認してください。
- **音量が最小や最大になっていないか、音量ツマミの位置を確認してください。**
  受信音が聞こえやすい位置にしておきます。
- **定期的に、決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。**
- **機器が雨にぬれたときなどは、電池を取り出し、乾いた布で本体と電池をよくふき、十分に乾かしてください。**
  特に電池をいれる部分はよくふいてください。
  また、別売品を接続していた場合も、別売品を本体からはずして、水分をふきとってから、十分に乾かしてください。
- **保管するときは、直射日光の当る場所、湿気ホコリの多い場所を避けてください。**
- **長期間使用しないときは、本体から乾電池をとりだしてください。**

10-5 IC-4008シリーズとの相互運用について

本製品は、従来のレジャー用9チャンネル機(IC-4008)および、業務用11チャンネル機(IC-4008B)と相互運用が可能です。
従来製品と相互に運用するときは、下記をご参照ください。

従来製品との通話チャンネル対応表

<table>
<tr><th>IC-4008W</th><th>IC-4008B</th><th>IC-4008</th></tr>
<tr><td>1CH</td><td>1CH</td><td rowspan="11">交信できません</td></tr>
<tr><td>2CH</td><td>2CH</td></tr>
<tr><td>3CH</td><td>3CH</td></tr>
<tr><td>4CH</td><td>4CH</td></tr>
<tr><td>5CH</td><td>5CH</td></tr>
<tr><td>6CH</td><td>6CH</td></tr>
<tr><td>7CH</td><td>7CH</td></tr>
<tr><td>8CH</td><td>8CH</td></tr>
<tr><td>9CH</td><td>9CH</td></tr>
<tr><td>10CH</td><td>10CH</td></tr>
<tr><td>11CH</td><td>11CH</td></tr>
<tr><td>12CH</td><td rowspan="9">交信できません</td><td>1CH</td></tr>
<tr><td>13CH</td><td>2CH</td></tr>
<tr><td>14CH</td><td>3CH</td></tr>
<tr><td>15CH</td><td>4CH</td></tr>
<tr><td>16CH</td><td>5CH</td></tr>
<tr><td>17CH</td><td>6CH</td></tr>
<tr><td>18CH</td><td>7CH</td></tr>
<tr><td>19CH</td><td>8CH</td></tr>
<tr><td>20CH</td><td>9CH</td></tr>
</table>

■無線機本体

- ●送受信周波数　422.0500MHz～422.3000MHz
- ●通　信　方　式　単信方式
- ●チャンネル数　20CH
- ●電　波　型　式　F3E(8K50F3E)
- ●周波数安定度　±4ppm(－10℃～＋50℃)
- ●使用温度範囲　－10℃～＋50℃
- ●電　源　電　圧　DC 4.5V(動作範囲 3.24～5.0V)
- ●消　費　電　流　送信時：70mA以下
受信待ち受け時：50mA以下
受信最大出力時：140mA以下
パワーセーブ時：約23mA
- ●送　信　出　力　10mW (＋20/－50%)
- ●低周波出力　100mW (4.5V/8Ω負荷/10%歪時)
- ●変　調　方　式　可変リアクタンス周波数変調
- ●受　信　方　式　ダブルスーパーヘテロダイン方式
- ●受　信　感　度　－14dBμ以下　12dB SINAD
- ●外　形　寸　法　102.5(H)×55.5(W)×26.5(D)mm
突起物は除く
- ●重　　　　量　約180g(乾電池×3本を含む)

11 定　格

■急速充電器(BC-119L)

- 入　力　電　圧　DC 12～16V/1A (専用ACアダプター使用)
- 使用温度範囲　＋10℃～＋40℃
- 保存温度範囲　−20℃～＋60℃
- 外　形　寸　法　60(H)×120(W)×104(D)mm
(突起物を除く)
- 重　　　　量　約270g

■ニカドバッテリーパック(BP-202)

- 定　格　電　圧　DC 3.6V
- 定　格　容　量　700mAh
- 使用温度範囲　＋10℃～＋40℃
- 保存温度範囲　−25℃～＋35℃

操作早見表 12

操 作 の 種 類	ス イ ッ チ 操 作	参照
電源の“ON/OFF”	POWER(スイッチ)	P12
音量の調整	VOL(ツマミ)	P12
チャンネル/グループの切り替え	MODE(スイッチ)	P16
チャンネルのアップ/ダウン	▲/▼(スイッチ)	P12
グループ番号のアップ/ダウン	▲/▼	P16
送信/受信の切り替え	PTT(スイッチ)	P13
圏内/圏外表示の“ON/OFF”	PTT＋MODE	P15
接続確認用ベルの送出	PTT＋▲	P17
呼び出しベルの送出	PTT＋▼	P18
ベル音の種類の設定※	①▲＋POWER ②▲/▼	P17
モニターの“ON/OFF”	MODE(1秒以上)	P19
キーロックの“ON/OFF”※	POWER(約2秒)	P20
ワンタッチPTT“のON/OFF”※	PTT＋POWER	P21
ビープ(操作音)“ON/OFF”※	▼＋POWER	P21
オートパワーオフの“ON/OFF”※	MODE＋POWER	P22
リセット操作※	MODE＋▼＋POWER	P29

- ※印のついた操作は、いったん電源を切ってからスイッチ操作をしてください。
- スイッチ操作欄の＋記号は、○○スイッチを押しながら、XXスイッチを押すことを表します。